

平成26年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

- 平成26年度重点課題
- 1 開かれた学校づくり
 - 2 基礎学力の充実と応用力の育成
 - 3 長所を伸ばし適性を引き出す教育の推進
 - 4 基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚
 - 5 人権意識の高揚
 - 6 環境教育の推進
 - 7 防災教育の推進

自 己 評 価					学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評 価	学校関係者の意見	
1 開かれた学 校づくり	①家庭・地域へ向け積極的に情報を発信する。	評 価 指 標		評価指標の達成度	総合評価	保護者は進路についての関心が高いようなので，日程等を工夫したり，事後にアンケートを実施するなどして更に開かれた総会となるようにしてほしい。参加率は学校を信頼して任せている保護者もいるので，一概に低いとは言えない。進路別説明会は好評だったので，秋にも実施してもらえるとありがたい。
		①学校ホームページへのアクセス件数 70000件以上		①アクセス件数 約 141000 件(2014/4/ 1～2014/12/31)	(評定) A	
	②保護者と積極的に情報交換し，日頃の教育活動に生かす。	②PTA総会・学年部会の参加率を増やす。		②PTA総会の参加率 33.4% 昨年 36.2% 3年対象進路別説明会 61.6% 昨年 35.6%	(所見) 今年は，P T A総会，進路講演会の日の午後	
		③市高祭の入場者数 1000人以上を目指す。 ③アトラクション・表現展示の参加団体数30以上を目指す。		③市高祭の入場者数 1221 名 昨年 1180 名 ③アトラクション数 11 昨年 17 表現展示数 24 昨年 23 食品バザール数 8 昨年 8 ③体験入学参加者 885 名（中学生:763 保護者:122） 昨年 1065名（中学生:986 保護者:79）	説明会を実施した。そのため，3 年対象進路別説明会の参加率が上昇したと考えられ，今後もこの形態を継続し，更に検討を続けたい。	
	③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。 1 市高祭の公開 2 体験入学の実施	③体験入学の 500人以上を目指す。			市高祭のアトラクション数は，1年生の参加がなくなり，昨年に比べて6減となった。表現展示数は昨年より1の増加となった。食品バザールは昨年と同数だった。入場者数は，他校との文化祭等と重なってはいたが，昨年を上回った。	
		活 動 計 画		活動計画の実施状況	体験入学は参加者が減少しているものの，アンケート結果からみ	
		①ホームページの更新を年に50回以上行う。		①更新回数 91 回（2014. 4. 1～2015. 1. 31）		①ホームページの更新を速やかに行い，情報提供をできるようにしていきたい。
		②PTA総会の日程を工夫したり，配布物による案内だけでなく，電話連絡をするなどきめ細かい情報提供・交換を行う。 ②PTA主催の各行事毎に，保護者へのアンケートを実施する。		②PTA主催の学校教育活動の開催に際し，日程を見通し，工夫を行うと共に案内状を配布するだけでなく，ホームページに掲載するなど情報提供を行った。 ② PTA 家庭教育部主催文化教養講座でのアンケート結果より(1)平日の午後実施の希望が多く，(2)内容については，寄せ植え，パン作り，甘酒作りなど多岐にわたっている。		② PTA 総会については今後も日程等を工夫して参加率を上げていきたい。
		③学校・保護者による作品展・交流を行う等，内容の充実に努める。		③生徒会役員を中心に市高祭ポスターを作成し，各中学校や高等学校へ案内した。また，地域住民には市高祭の案内の文書を，各家庭に生徒が配布するなど広報活動に		③新校舎での市高祭もある程度要領等も分かり，落ち着いて取り組めるようになってきた。今後も企画運営等を改善し，より地域に親しまれる市高祭にしていきたい。
						③体験入学の参加者はやや減少している。新校舎効果も落ちついてきたと思われる。今後も市高の魅力を発信して広報に努めたい。
						③体験入学は毎年好評で，今後もアンケートを実施し，その結果を次回に反映するように努めたい。

		り替え授業を徹底する。 ①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。 ②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。 ②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。 ②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。 ②校外の研修会等も活用する。 ③週末課題・日々の課題で学習の習慣化を図る。 ③家庭学習時間調査の期間を学習強化週間として学習習慣の定着を促進する。 ③集会・面談等において家庭学習時間の確保と重要性を指導し、生活記録に記すことで学習計画を立てる習慣をつける。 ③生徒が集中して学習に取り組める環境を確保する。 ④担任による生徒への出席の督促と保護者の協力により欠席者を減らす。 ④(3年)担任指導により欠席者への受講を促す。 ⑤実力テストごとに出題検討委員会を開く。 ⑤各模試の目的・意義を伝える。 ⑤成績の分析を今後の学習指導に役立てる。 ⑥夏休みの宿題として、以下のものを提出させることで正確に読みの確に表現する力を向上させる。。 (1年夏休み)読書感想文・世界史レポート ⑥図書館便りで新着図書や推薦図書の案内を行うとともに、各教科からも案内を行う。	時数の確保については、全職員共通認識の上で定着している。 ②1,2年生生徒対象進路講演会、職員対象進路研修会を実施し、進学への心構えや取り組み方、進路指導技術について研修した。 ②校内授業参観週間では、自分の専門教科を最低1回は参観し、参観カードを提出するようにした。 ②研修会への参加教員からはレポートを提出してもらい、教科内で共有した。 ③週末課題・日々の課題は必要に応じ出されている。 ③家庭学習時間調査は学習強化週間に行い、担任からの声かけに生かしている。 ③各HR担任は生徒から提出された「生活記録」にコメントを書いたり、日々の声かけや面談時に生活記録の内容に言及することで生活の改善を促している。 ③自習室開放を平日8:30～19:00、休日8:30～16:30にほぼ年間を通じて実施している。1月末で293日開放、のべ利用生徒数13,801人。 ④電話連絡・三者面談等の機会を通じて補習への出席を督促している。 ⑤各HR担任が個人面談等を通して校内実力テスト・校外模試の目的・意義を伝え、学習意欲の高揚をはかるように指導している。 ⑤校内実力テスト・校外模試の結果は学年・教科で共有し、日常の指導に役立てている。 ⑥1年は読書感想文と世界史のレポートを実施し全員提出した。			
3 長所を伸ばし適性を引き出す教育の推進	①部活動の活性化に努める。 ②生徒一人ひとりの進路希望の実現に努める。	評価指数 ①部活動加入率 80%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。 ②生徒進路についての検討会（進路対策会議）を次の回数実施する。 (1,2年)年間 2回	評価指標の達成度 ①部活動加入率 1年 90.0% 2年 92.0% 3年 84.0% ①四国大会以上の出場部数 四国大会 14部 全国大会 11部 ②進路対策会議 1年 2回 2年 2回 3年 4回	総合評価 (評価) A (所見) 部活動が活発に行われており、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得ら	学校祭や部活動が盛んな事は本校の伝統となっており、年々充実してきているので、これからも頑張ってもらいたい。また、部活動を通じて生徒と卒業生の方々との交流が行われ、貴重な経験となっている。市高生「夢」実現応援事業では文武両面の支援があり、生徒にやる気が	①部活動加入率は目標値を達成している。より意欲的に部活動ができるように生徒をサポートしていきたい。 ②難関大の現役合格者数の目標値には達していないが、生徒の志望を叶えられるように努めたい。

		(3年) 年間 5回 ②生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回確保する。 ②生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。 ②難関大（旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応）の現役合格者数50人以上を目標とする。 ②IRP活動（市高レインボウプラン）の生徒満足度 70%以上を目指す。	②3者面談 1年 2回 2年 2回 3年 3回 ②2者面談週間 1年 2回 2年 2回 3年 2回 その他三者、二者面談とも各HRで必要に応じて行った。 ②IRP活動の生徒満足度 67.1 % 昨年度 60.9%	れるような指導の取り組みが求められる。 これまでの京都大学との交流事業等の取り組みの結果、京都大学と教育連携協定を締結した。地元の京都市以外では徳島市が初めての締結であり、今後共京都大学との連携・交流を継続していく必要がある。 市高レインボウプランにおいては、高大連携教育あるいはキャリア教育の観点からも、生徒が自ら考え、行動できる力を身につけ可能性を広げる工夫をする必要がある。	出る事業だ。大会へのトレーナーの配置もあり、安心して活動ができる。	②市高卒業生などのネットワークをもとに各大学、職場と連携することによって高大連携教育やキャリア教育を進展させる必要がある。特に協定を結んだ京都大学等の連携事業を拡大していきたい。
		活 動 計 画 ①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会で指導する。 ①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。 ②生徒の希望を現在の学力から適切妥当な進路先を提案するため、学年の教員の話し合いや研修をととして指導力を高める。 ②面接週間以外にも時宜を得た面接指導を行う。 ②一人ひとりの長所・適性を把握する。 ②生徒と保護者の希望のすり合わせと、その希望を実現するための具体的な方策を担当が提案する。 ②生徒の志望の実現に向け、教員が研修した成果を生徒に還元すべく、個別指導に努める。 ②大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。	活動計画の実施状況 ①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①総体・四国総体・インターハイ・国体壮行式を実施した。表彰伝達式を 8回実施した。 ②学外の社会施設や大学などに直接出向き説明をうけるなど体験的な講座を設け、また、学内に講師を招聘し、講座を複数回受講した。さらに、社会で活躍する卒業生を招き、現在の仕事や高校との接合など具体的な体験談を聞く機会をもった。また、これらの経験を年度末に各グループ、クラス単位で報告するIRP発表会を開催し、体験の共有化をはかった。			
4 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	①集団生活におけるルールを遵守させ、マナーの向上を図る。 ②遅刻防止の指導の充実を図る。	評 価 指 数 ①登校指導、校内巡視指導（昼休み）を毎日行う。 ①生活指導の集会を年 5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年 20回以上実施する。 ②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に 1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。	評価指標の達成度 ①登校指導及び昼休みの校内巡視指導を毎日実施した。 ①生活指導の集会 全校集会 4 回実施 学年集会 1年 6 回 2年 6 回 3年 10 回 ①街頭交通指導 交通マナーアップ運動 10 回実施 学校安全の日 10 回実施 ②遅刻指導強化週間 1年 1 回 2年 1 回 3年 1回 ②年間遅刻者数（1日あたりの遅刻者数、2学期末現在） 今年度 10.1人 昨年度 10.0人	総合評価 （評定） A （所見） 遅刻者数が一昨年に比べ減少してきている。しかし、特定の生徒の遅刻が目立つ状況があり、それらの生徒に対しての生活習慣の指導を徹底する必要がある。 昨年度より、指定セーターを導入することで、防寒着に対しての指導が徹底しやすくなり、制服の着こなしのマナーが向上してきた。	自転車通学生が多い中で、日々よく努力されている。熱心に指導してくれているが、一部の生徒に交通違反等も見受けられるので、これからも呼びかけを継続していったほしい。	①挨拶運動は、本年度同様に生徒会を中心に組みみたい。 ①交通事故防止や交通マナーの向上に向けて、より徹底した指導に努めたい。 ①冬期の制服の着こなしが改善されてきており、夏期についても生徒の着こなしマナーの向上を目指すとともに、シャツのデザイン等で改善できるものはないか検討していきたい。
		活 動 計 画 ①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。	活動計画の実施状況 ①生徒指導年間計画に基づいて適切に指導にあたった。 ①生徒を主体とする挨拶運動は、生徒会・交通委員とともに達成できた。			

		①学年集会，全校集会で指導する。 ①毎月の交通マナーアップ運動の日，学校安全の日に街頭指導をする。	①集会における指導は，問題行動を防ぐことができるような内容とし，生徒の健全育成に努めた。 ①毎月10日の交通マナーアップ運動は，職員・生徒が警察署・地域の交通安全協会の方と共に街頭に立ち指導した。毎月20日の学校安全の日は，職員で街頭指導した。年度や学期の始めは，連続した街頭指導を行っている。			
		②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。	②遅刻理由を把握し，適切な遅刻指導が行えた。各学年において遅刻指導を実施した。			
5 人権意識の高揚	①人権ホームルーム活動の充実を図る。 ②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。 ③人権教育職員研修会の充実。	評価指数 ① 1年生は6回，2年生は6回，3年生は5回以上の人権ホームルーム活動を確保する。 ① 1年生は3回，2年生は3回，3年生は2回以上の先行授業及び研究授業を目指す。	評価指標の達成度 ①人権HR 1年生…6回，2年生…6回，3年生…5回 ①先行授業 1年生…3回，2年生…3回，3年生…2回	総合評価 (評定) A	人権展の場所を工夫すれば来場者は更に増えると思われる。展示内容は良かったが，誤字もあったので，チェックが必要である。	①人権委員のホームルームでの活動をより支援できるようにするとともに，生徒同士の自発的な学びができるように工夫していきたい。 ②人権新聞に，生徒の率直な意見を掲載し，生徒間で話題となるような記事を提供していきたい。 ③教職員人権研修のテーマを学校の現状と照らし合わせ，より実践的で現場に生かせる内容にしていきたい。
		②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②「市高人権新聞」は年間6回以上の発行を目標とし，記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。 ②「人権展」では模造紙16枚以上を目標とし，来場者100人以上を目指す。 ②中高生による人権交流集会への参加を増やす。	②事前研修 1年生…4回，2年生…5回，3年生…2回 ②年間6回発行 ②模造紙15枚，来場者86名 ②中部のスタッフとして2名が参加	(所見) 担任はホームルームの先行授業や指導案を参考にしながら，クラスの実態に即して指導し，人権ホームルームの充実を図った。今後は，人権問題に関して生徒同士の自発的な学びが行われるよう，人権委員会を中心にサポートしていきたい。		
		③PTA研修は2回，校外研修は1回，校内研修は3回以上の開催を目指す。	③PTA研修を兼ね京都大学を訪ね校外研修を実施した。 ③年間2回実施 ③教員研修を年4回実施した。	人権委員会の活動も年間を通して活発に行えた。人権新聞や人権展などが授業以外で人権を考える場となった。 人権教育職員研修は，年4回実施できたが，多様な人権問題に対する教職員の要望に応えられるように，研修のあり方をさらに工夫していく必要がある。		
		活動計画 ①人権教育年間計画に基づき，各クラスの実態に即して指導を行う。 ①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ①各学年で先行授業(研究授業を含む)を実施する。 ①1年次の最初と3年時の最後に，人権問題意識調査を実施する。	活動計画の実施状況 ①1年生では，身の回りの差別を中心に指導を行った。2年生では，アイヌから始め，近代・現代の歴史を学習した。3年生は企業・就職・結婚を中心に指導を行った。 ①担任の先生方に先行授業を見てもらった後，授業感想用紙による振り返りを行った。			
		②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。 ②人権ホームルーム記録用紙を作成する。 ②「市高人権新聞」を発行する。 ②市高祭で「人権展」を開催する。 ②「人権啓発作品展示」を実施する。 ②中高生による人権交流集会へ参加する。	②1年生では，全体学習の実施や，2時間続けての実施となったため，実際の回数より事前学習が少なくなっている。 ②全学年とも，人権ホームルームの記録用紙を各クラスの人権委員が活動当日，または翌日に記録用紙を作成し，提出できた。 ②各クラスの人権委員は担当月の人権新聞作成に真摯に取り組めた。 ②人権展のための調べ学習やレポート作成を，多くの人権委員が積極的に行うことができた。「やる気むきむき人権委員」と題し，「高齢者問題」「アイヌ」「医療」「刑を終えて出所した人」など，各クラスで様々な種類の展示			

			を行った。 ② 1 年生の書道・美術選択者中心に作成を行った。 ② 2 名が中部のスタッフとして中高生による人権交流集会に参加した。			
		③ PTA 研修を実施する。 ③校外研修を実施する。 ③校内研修を実施する。	③ 5 月「多民族共生-ヘイトスピーチについて-」講演，7 月「セクシュアルマイノリティー」講演，9 月「京都大学県外研修」，10 月「ケータイ安全教室-保護者・教員編-」講演，1 学期に 2 回，2 学期に 1 回ずつ実施し，3 学期は 1,2 年生の人権意見発表会に参加した。			
6	環境教育の推進	①資源の有効利用や環境負荷の軽減，環境保全など，地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。	評価指数 ①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別，減量化に努める。 ①リデュース，リユース，リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を毎月1回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。	評価指標の達成度 ①校内美化活動 15 回実施 ①学校周辺地域の清掃活動 10 回実施	総合評価 (評価) A	今年節電を 3%達成したことは評価ができる。 ①環境委員の活動は活発に行われているものの，一部の生徒にとってはあまり関心がないように思われる。 ①省エネについての関心をより高め，今年度減少した使用電気量を更に減らせることができるような啓発やアイデアを探りながら活動していきたい。
			活動計画 ①毎月の電力，水道使用量を調べ，昨年同期との比較を行い，結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水を呼びかける表示を貼り，注意を促し，使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトル，紙パックの分別回収，家庭の廃油回収をおこない，印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け，全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で，環境美化や省エネについて，全校生徒に呼びかける。	活動計画の実施状況 ①毎月の使用電気量及び電気代を調べ，過去2年間と比較したものをグラフにして掲示する事により，より一層節電意識を高めていった。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をノートにチェックし，そのたびに注意勧告を行うことにより，分別状況が改善されるようになった。 ①環境美化に関するポスターや標語の作成を行った。 ①徳島新聞社主催の「今日から始めるエコプロジェクト」の標語募集に参加した。 ①ペットボトル，紙パックの分別回収，家庭用廃油回収を行ったり，職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①学期初めに委員長が校内放送を通して節電について話すとともに，環境委員による月 1 回の校外美化活動を実施した。①県が推進する「5 3 0 の日～ゴミゼロの日～」活動に参加し，地域周辺の清掃活動に参加した。	(所見) 「新学校版環境ISO」の認定を受け，「環境目標」，「行動方針・実施方法」，「役割分担・組織」などを掲示し，また環境委員を中心に省エネ・ゴミの分別について各クラスで呼びかけを行うなど，活発な活動を行うことができた。その結果，昨年と比べ約3%の節電をすることができた。 校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており，今後も継続的に啓発活動に取り組みたい。	
7	防災教育の推進	①防災意識を高め，災害時に自らの命を守り，落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。	評価指数 ①防災について関心の高い生徒の割合を 80 %以上にする。	評価指標の達成度 ①学校の防災教育において，防災の意識の高まった生徒の割合 67.0%	総合評価 (評価) B	以前と比べると学校周辺の景観が変化し，危機意識が薄れてきているようである。しかし，本校の立地を考えると，教員・保護者・生徒共に防災意識を一層高めていく必要がある。 ①防災についてのクラブが無く，JRC の活動を伝えてもらったりしているのが現状ではあるが，中学校時代に防災について深く考え学んできた生徒が入学してきているので，その生徒たちを中核にして活動を広げていければと思っている。また，外部からの資料の提供もあるので，職員室や教室に
			活動計画 ①年 2 回防災訓練を実施する。 ①授業を通して，自然災害についての理解を深め，防災意識の向上に努める。 ① 2 年生の進路学習の時間に防災関係の講座を実施する。	活動計画の実施状況 ① 1,2 学期にそれぞれ防災訓練を 1 回ずつ（計 2 回）実施した。 ①各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。 ① 2 年生の進路学習の時間に防災関係の講座を実施した。	(所見) 昨年より意識の高まった生徒の割合が 11.5 ポイント上昇した。各教科に呼びかけて授業で扱う時間を増やした。また近年，県内でも雪	

				害や水害などが多く発生しており，生徒の意識が高まったように思われる。年 2 回の防災訓練もより充実したものになるよう検討をしていきたい。	配布するなどして意識高揚に努めたい。
--	--	--	--	--	--------------------